

平成28年4月27日
子ども・若者部
教育委員会事務局

世田谷区立若林小学校改築（拠点保育園との複合化）基本設計（案）について

(付議の要旨)

世田谷区立若林小学校改築（拠点保育園との複合化）に係る基本設計（案）を取りまとめたので、その概要を報告する。

1 基本設計概要

(1) 基本方針

- ①若林の人と環境の力を結集した、未来の人材を育成する活動拠点
- ②自然とのふれあいを大切にした、子どもたちの感性と主体性を育む施設
- ③地域の防災拠点として、人々の安全・安心に貢献
- ④小保複合化のメリットを活かした施設づくり
- ⑤コンパクトでシンプルな校舎を計画し、建設から運用までの財政負担を低減

(2) 建築概要

- ① 敷地概要
所在地 世田谷区若林五丁目27番18号
敷地面積 約12,470㎡
- ② 建物概要
構造・階数 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造、
小学校地上3階建、保育園地上2階建
小学校 延床面積 約7,860㎡
保育園 延床面積 約1,760㎡
- ③ 主要室構成
ア 小学校：普通教室（17）、ワークスペース（3）、特別支援教室（2）、特別教室（理科室、家庭科室、音楽室（2）、図工室、図書室等）、多目的ルーム、給食諸室、管理諸室、新BOP室、防災倉庫等
イ 保育園：保育室、調理室、事務室、おでかけひろば等
- ④ 建築面積／建ぺい率 約5,270㎡／42%
- ⑤ 延床面積／容積率 約9,620㎡／77%
- ⑥ 最高の高さ 平均地盤面 約+14.9m
- ⑦ 案内図 別紙のとおり
- ⑧ 配置・平面図 別紙のとおり

2 施設の特徴

(1) 配置計画

新校舎を北側に配置し、普通教室の良好な学習環境と整形で日当たりの良いグラウンドを確保するとともに、周辺環境を著しく変えないよう配慮する。また、体育館は敷地の東側に配置し、地域利用や非常時の避難所機能に対応できる動線とする。

新園舎は北東側に配置する。通園用の出入口は校舎と園舎の間の街路上空間に面して配置し、園児の通園時の安全性に配慮する。

(2) 平面計画

- ① 普通教室は2～3階の南側にまとめて配置し、自然採光と自然通風による良好な室内環境を確保する。
- ② 特別教室は、普通教室と同一階である2～3階にまとめて配置し、児童の教室間移動の動線に配慮した計画とする。
- ③ 特別支援学級ゾーンは、1階の北西側に配置するとともに、独立したアクセス動線等を確保して落ち着いた環境を確保する。
- ④ 職員室や主事室等の管理諸室は昇降口及び校庭を見渡すことのできる1階に配置し、児童の登下校や来校者の視認性に配慮した計画とする。
- ⑤ 体育館は十分な大きさを確保すると共に、管理用通路に面して配置し児童・地域住民が利用しやすい計画とする。
- ⑥ 拠点保育園は0歳児～2歳児の保育室を1階、3歳児～5歳児の保育室を2階に配置し、生活や遊びの中で異年齢の子ども同士が自然に関わることを重視する。おでかけひろばは1階に配置し、園庭利用に配慮する。

(3) 動線計画

児童の教室移動の動線に配慮して、普通教室と特別教室はできるだけ同一階に配置する。また、基本的に児童の登下校動線は南門を利用し、給食車両等の業務車両動線とは明確に区分した計画とする。

拠点保育園には小学校とは別に専用玄関を設け、園児の送り迎えのために自転車駐輪スペース等を整備する。また、おでかけひろばには保育園とは別に専用玄関を設け、在宅子育て家庭が利用しやすい計画とする。

(4) 外構計画

敷地北側及び南側道路に関しては歩道状空地を設け、児童と園児、地域の安全を確保する。

(5) 防災計画

地域の防災拠点として、必要な施設を設けると共に、校庭・園庭・体育館・防災倉庫等の位置に配慮する。

(6) 環境への配慮

屋上緑化、太陽光発電、雨水利用等を行い、施設全体が児童・園児の環境教育の場となる仕組みを整備する。

3 概算工事費

約42.2億円（外構・校庭・園庭整備工事を含む。）

4 工事工程

平成28年度

実施設計

平成29・30・31年度

旧校舎解体、新校舎・新園舎建設、外構・校庭・園庭整備工事

平成31年度

新校舎、新園舎（世田谷保育園移設）供用開始

平成32年度

代田保育園統合、拠点保育園運用開始

5 今後のスケジュール

平成28年5月24日 教育委員会報告

平成28年5月25日 文教常任委員会報告

平成28年5月26日 福祉保健常任委員会報告

平成28年6月中旬 住民説明会